

各 位

会 社 名 ジェイ・エスコムホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役会長兼社長 丁 廣鎮
 (JASDAQ・コード3779)
 問合せ先 業務管理統括本部
 課長 北原 昭夫
 (電話 03-3507-6350)

特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

この度、当社において、下記のとおり特別損失が発生いたしますので、その概要をお知らせするとともに、平成21年12月25日に公表しました平成22年3月期（平成21年4月1日～平成22年3月31日）の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

当社が保有する当社の連結子会社である株式会社エスコムの株式につき、同社の現在までの業績並びに今後の業績見込みを鑑み、関係会社株式評価損として198百万円を特別損失に計上いたします。

なお、この特別損失の計上は連結上相殺消去されるため、個別業績にのみ影響し、連結業績に対する直接的な影響はありません。

2. 平成22年3月期連結業績予想の修正等

通期連結累計期間（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 1,581	百万円 △ 27	百万円 2	百万円 36	円 銭 0.60
今回修正予想 (B)	691	△107	△ 99	△ 71	△1.16
増減額 (B - A)	△ 890	△ 80	△101	△ 107	
増減率 (%)	△56.3	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成21年3月期)	628	△180	△153	△141	△2.31

3. 平成22年3月期個別業績予想の修正等

通期個別累計期間（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 64	百万円 △49	百万円 △49	百万円 △16	円 銭 △0.26
今回修正予想 (B)	64	△48	△49	△214	△3.51
増減額 (B - A)	0	1	0	△198	
増減率 (%)	0.0	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成21年3月期)	48	△85	△84	△85	△1.39

4. 修正の理由

(1) 通期連結業績予想

当社グループは、少子化の影響、消費者保護法及び内部統制制度の施行を受け、過去、教育事業において収益の柱であった教材の訪問販売から撤退し、在庫の減損会計処理に基づき低価法の採用を行いバランスシートの整理を進める傍ら、理美容商材を扱う企業を買収、TV通販企業を持分法適用企業とするなどビジネス範囲を広げ、当期連結業績予想においてもM&Aの成立による収益改善を目標として参りました。

当社グループは、今後成長が見込めるビジネスモデルを保有するも業績が低調で財務諸表上の瑕疵がある潜在価値の高い企業をM&A対象企業とし、可能な限り少ない投資によって当該対象企業を買収、経営・財務内容を健全化することで企業価値を高め、当社グループ全体の利益向上に繋げることを目的且つ成長戦略の一つとしております。

この成長戦略に基づき前連結会計期間から進めていた買収案件は、対象企業と債権者の間での債務返済方法等に関する折りはついたもののその調整に時間を要し、その後の対象企業のバランスシートの改善が現段階になっても進んでおりません。バランスシート上多大な債務超過額を抱えた対象企業を買収は当社自身の業績に与える悪影響が大きいため、今期における買収は断念せざるを得ないとの判断に至りました。その結果、今年度中に成立を見込んでいた本買収による業績寄与分として、売上高611百万円、営業利益10百万円をそれぞれ0円に下方修正いたします。尚、本買収案件は対象企業の財政状態をにらみつつ引続き継続する一方で、その他の案件についても精査・検討を行って参ります。

教育事業（株式会社エスコム）につきましては、新教材開発を進めることによる採算が不透明な中、企業教育コンサルティングも確固とした収益モデルを築くには至らず、通期売上予想38百万円を36百万円に修正いたします。

衛星放送事業（株式会社インストラクティブ）につきましては、外部的に大きな要因である経済環境悪化による個人消費の冷え込みの影響を受け、スカイパーフェクTV視聴者数が減少していることから、通期売上予想268百万円を256百万円に修正いたします。

商事その他事業（株式会社エスコム及び株式会社ウエルネス）につきましては、株式会社ウエルネスが貢献しているものの世界的景気低迷による個人消費の悪化等を受け、理美容サロンへの顧客来店頻度の減少などが見られ、また、新規事業としてTVショッピング番組映像、WEB用広告素材、販促映像の制作が加わりましたが、当初の見込みどおりの売上げに届かなかったことから、通期売上予想662百万円を398百万円に修正いたします。以上の企業買収断念の影響、並びに各事業セグメントにおける通期売上予想の修正により、通期連結累計期間における売上高の予想数値を1,581百万円から691百万円に下方修正いたします。

営業利益につきましては、販売費及び一般管理費は概ね計画通りに推移しているものの、上記諸要因による売上高の下方修正の影響により、予想値を△27百万円から△107百万円に、経常利益予想につきましては2百万円から△99百万円に、当期純利益予想は36百万円から△71百万円へとそれぞれ下方修正いたします。

(2) 通期個別業績予想

個別の業績予想数値について、売上高はほぼ前回発表予想通り推移しており、修正はありません。営業利益についても前回予想△49百万円から△48百万円と、少額の修正に留まる見込みであり、経常利益の予想数値も修正はありません。

しかしながら、当期純利益については、前述1.に記載のとおり特別損失として関係会社株式評価損198百万円を計上した影響から、前回予想の△16百万円から△214百万円に下方修正いたします。

※ 業績予想は、本資料の発表時現在において入手可能な情報に基づいて算出したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

以上